「持続可能な復興広報を考える検討会議」
～風評被害の払拭と風化対策を図るための情報発信の手法を考える～（第５回）
議事要旨

１　日　時：令和４年 12 月 23 日（金）　13:00～15:00

２　場　所：中央合同庁舎４号館４階第２特別会議室

３　出席者：秋葉復興大臣、
五十嵐構成員、岡田構成員、開沼構成員、殿村構成員、
森下構成員、山口氏（ゲストスピーカー）、ほか関係府省庁

議事の概要：

（１）構成員からのプレゼンテーション

ゲストスピーカーより、「災害復興広報と偽・誤情報への対処」というテーマのもと、

・人が偽・誤情報を拡散する動機としては「伝えることが人・組織・社会のためになると思った」というような、善意によるものが多く、災害時にはデマが出やすくなってしまうということ

・偽・誤情報の接触者のうち 15～30%は情報を拡散しており、その拡散スピードは、偽・誤情報の目新しさもあり、正しいニュースの６倍にもなるという分析結果も出ていること

・これらの分析を踏まえて、SNS 時代において効果的にファクトを広めるためには、迅速で正確な情報提供ができるプラットフォームの構築、イラストなどを使った情報提供の工夫、メディアへの情報提供に組織的に対処できる体制構築、などが重要であること

などについての講演をいただいた。

（２）意見交換について

上記プレゼンテーションを踏まえ、各構成員より、

・復興広報は、すでに中庸的な考えを持つ層が小さくなり、自分の意見と異なる情報を受け入れない岩盤化した層がほとんど。この“岩盤層”の人々にどのように働きかけていくのか、検討が必要。働きかけの方法の１つは、相手の話を聞き入れ、丁寧なコミュニケーションをとり、相手に自発的に気づいてもらうことが考えられる

・誰もが SNS などを活用して情報を発信できる時代においては、外部から情報の訂正ができないクローズドの状況において偽・誤情報が回ることを防ぐためにも、人々のメディア情報リテラシーを向上させる取組が重要

・人々が、SNS 上の情報を鵜呑みにするのはやめようという方向に動き始めている中で、ここに来れば安全と人々が感じるページを作り、日ごろからその存在を周知することが重要

等のコメントをいただいた。

（３）これまでの議論を踏まえた論点整理について

事務局よりこれまでの議論の整理を行った後、各省の取組への反映状況を共有し、意見交換を行った。